

リーディングDXスクール事業【実践事例】

岩沼市立岩沼小学校

【取組内容】 岩沼小学校リーディングDX特設サイトの開設と公開学習会の開催



文部科学省「リーディングDXスクール事業」とは

「リーディングDXスクール事業」は、GIGA機種の標準仕様に含まれている汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十分に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や校務DXを行い、全国に好事例を展開するための事業です。本校は今年度、指定校として実践事例を創出し、その効果検証や外部への発信を行っています。岩沼小学校は令和5年・6年と2年間この事業の指定校となっています。



文部科学省リーディングDXスクール事業ホームページへのリンク

本校の研究に関する動画



本校の授業動画



岩沼小学校リーディングDX特設サイトによる発信

取組4 生成AIの活用について

生成AIで教材づくりと評価

コンピュータによる客観的な評価や個別のアドバイス

他者参照を促すモデル作成

生成AIにおける中学校との連携

生成AIの強みと弱みを知る。

小学校と生成AI

AIに関する理解を深めることは、将来AIとのコミュニケーションが日常化する子供たちにとって非常に大切なことです。しかし、現状では年齢による生成AIの使用制限もあり、子供の活用による本格的な指導は難しいと言えます。そこで、現段階において小学校は、教師が教材研究・教材づくりで生成AIを活用し、コンテンツを子供に提供する、教師が生成AIでクリエイトしていく様子を子供が見て学ぶなど、生成AIの概要をおさえることが大切だと考えます。この取組が中学校との連携につながると考えてます。

実践1 5年生国語「インターネットは危険だ」

国語実践

ChatGPTが生成したお手本を見比べる
生成AIが作った3種類の文章の見比べによって、他者参照を促す
ChatGPTによる評価と助言
評価、助言を子供にフィードバックする。

「要旨」をまとめる

要旨をまとめることは、子供たちにとって難しいという意識があります。そこで、生成AIを用いて要旨の見本を提供しました。

また、子供の書いた要旨を評価させ、アドバイスを子供にフィードバックを行いました。

評価：B+

判断：要旨はインターネットの3つの特徴（誰でも情報を発信できること、情報が簡単にシェアされること、フィルターバブル）について触れており、それぞれの危険性にも言及しています。しかしながら、各ポイントについての具体的な例や詳細が不足しているため、さらなる説明が必要です。

最初に書いた自分の要旨：「インターネットは、楽しさもあるが危険もひそんでいる。インターネットの特徴は大きく3つある。一つは、だれもが情報を発信できることだ。そのためその情報も正しい情報がある。二つは、情報が簡単にシェアされてしまうことだ。インターネットの仕組みにより現実では見えないものもシェアできる。三つは、情報が流れてしまうことだ。これをフィルターバブルという。これで考え方がせまくなる。しかし、これを知っておけば正しい情報が見られるはずだ。」

評価になるための要旨の修正案：「インターネットは情報が集まる便利なツールですが、その危険性も伴います。最初に、誰もが情報を発信できるため、誤情報やうそニュースが広まりやすいです。次に、この情報は簡単にシェアされるため、一度広まった誤情報は取り消すことは困難です。最後に、フィルターバブルにより、私たちは気づかずに似たような情報に囲まれてしまうことがあります。これらの危険性を認識し、情報のあつたに気を付けることで、インターネットをより安全で有意義なものにすることが出来ます。」



公開学習会による発信

本校では、リーディングDXスクール事業2年目の努力目標として「取組の外部発信」と「家庭とのDX連携」を設定した。取組の外部発信については、リーディングDXスクール特設サイトを作成し、2年間のDXの取組を発信している。このサイトは6ページ構成になっており、項目毎に取組がまとめられている。

また、令和6年12月12日に公開学習会を行った。当日は県内外から約180名の方々にご来場いただき、大盛況のうちを終えることができた。公開学習会後も、本校の取組に関心を寄せる多くの方々から視察のご要望をいただいている。